

## 記事の一部無料公開のお詫びと 新サイト開設のご案内

当社のメールマガジンなどでもご案内しているが、10月21日に本誌と食品安全情報ネットワークの共催で、敢えて「緊急セミナー」と銘打った、『ラウンドアップ問題』を考える」というセミナーをTKP東京

駅日本橋カンファレンスセンターで開催する。この原稿を書いている時点ではその準備をしているところで、今月号が読者に届くころにはすでに終了している。その内容については次号で紹介するほか、新たに本誌で開設する「AGRI FACT」というサイトでも公開していく。

あわせて、購読およびインターネットで本誌をご覧いただいている皆様にご理解を願いたいことがある。本誌では、発行後1年を経過した記事を本誌のネットサイトである「アグリビジネス」

上に無料公開してきたが、今月より農業や食、あるいは農業などの技術に関する安心を伝える本誌記事に関しても発行と同時にどなたでも閲覧いただけるように変更させていただいた。これまで有料でお読みいただいていた皆様には記事の一部である

とはいえ、不利益を与えることにならざることをお詫びせねばならない。6月号の「ラウンドアップの風評を正す」および7月号の「さらにラウンドアップの風評を正す」の特集記事からである。

本特集は今、ネット上に氾濫している科学的根拠のないラウンドアップに関する発がん性や安全性を疑わせるような情報に対して農業経営者の皆様に安心して使うことを勧めるためのものであった。その特集に対しては多くの読者より歓迎の言葉をいただいたものの、少なからぬ農業経営者がネットで流される風評に困惑していること知った。

この農業に関して事実誤認を与えようとする被害者は農業者とともに消費者である。そして、こうした風評によって農業経営が危うくなることを防ぐには、消費者の人々に正しい情報を提供していくことが必要であると考えらるからである。当面「AGRI FACT」では農業、とりわけネット上を賑わしているラウンドアップ（成分名…グリホサート）を中心に、偽情報を正していくことをはじめ、農業や育種技術あるいは食

品添加物などについても取り上げていくつもりである。

また、10月21日のセミナーにはメディアの人々に呼びかけて農業技術の厳しい安全管理手順やラウンドアップがどのようにして悪者にされていったのかを解説し、同時に米国でのラウンドアップ裁判に関してその背景を解説する。

メディアは人々の中に「不安」があると、その背景の科学技術やその管理システムについての常識を無視して不安が広がっている事実だけを報道することが少なくない。そんなメディア関係者に農業に関する正しい情報を持ってもらうことが根拠のない社会不安が広がることを防ぐことにつながると思うからだ。

本誌は有機農業に取り組む人々を紹介してきたし、その活動や有機農産物を求める人々を否定するつもりなどない。一部の極端な運動家たちによる風評の垂れ流しに対して強い怒りを感じている。それは健全な農業経営の成長を妨害するものだからだ。

# 江刺の稲

「江刺の稲」とは、用排水路に手刺しされ、そのまま育った稲。まったく管理されていないこの稲が、手をかけて育てた畦の内側の稲より立派な成長を見せている。「江刺の稲」の存在は、我々に何を教えるのか。土と自然の不思議から農業と経営の可能性を考えたい。